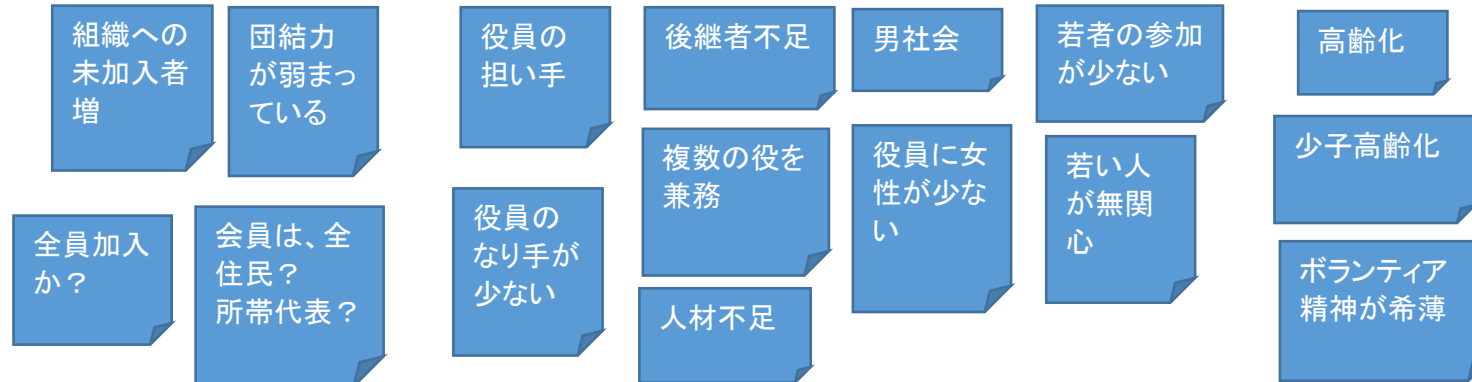
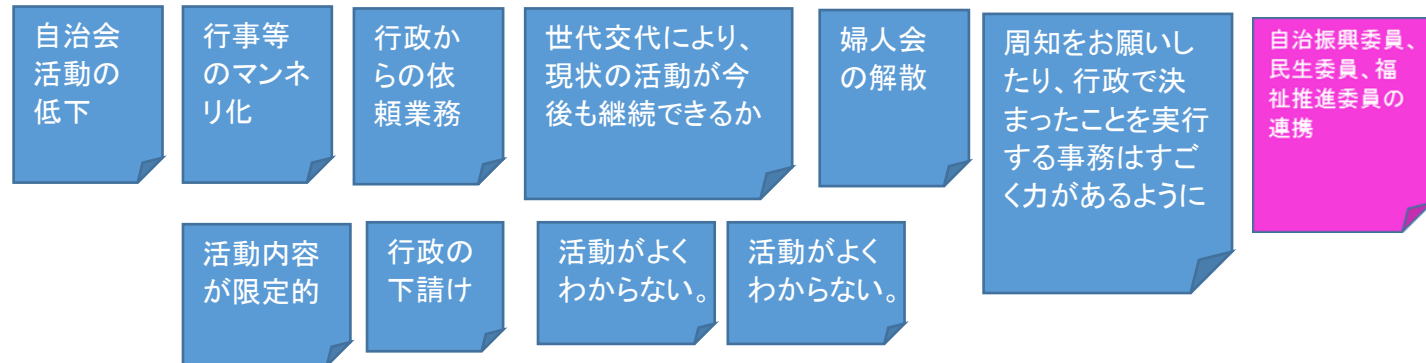


自治会について

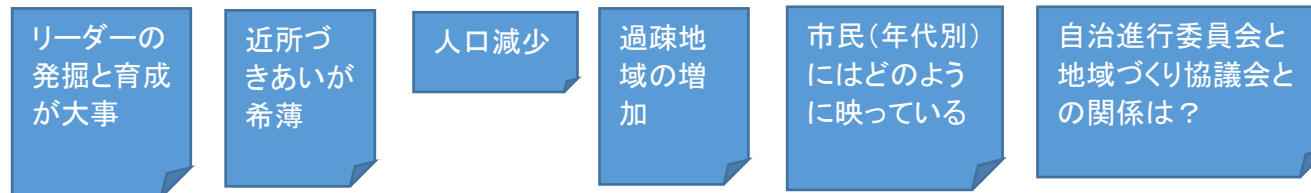
構成員



活動



その他



NPOについて

認知度

存在が知られていないのでは？

どのようなNPOがあるのか知らない。

市内にどれだけのNPO団体があるのか知らない。

団体の動きがよくわからない。

どのような活動をしているのか。

NPO団体がどのような理念で活動しているのか知らない。

メリットとデメリットはどんなことか。

活動費

収入、資金源が乏しい

財政支援が必要

スタッフにわずかでも報償費等で報いることのできるシステム構築

その他

法人化すればよいと思う傾向がある。

人口減少・少子高齢化に対応するNPO活動等の促進

連携・協力

行政からの情報等連携が必要

NPOとしてやりたい事と行政の想いが近づく工夫が必要

行政が必要としていることを具体的に伝えることが必要

連携が重要

住民と協力して地区の活性化に取り組む。

市民協働について

理解度

市民の協働に対する理解度。

行政が考える市民協働がわからない。

市民協働の言葉を子供にもわかる言葉におきかえられないか。

市民協働について市民にわかりやすく説明することが必要

具体的市民協働とは？

名ばかりの協働

委員委嘱の依頼にしても窓口となる各自治会の役員へお願いするだけ

資料には「市民が」の文字が目立ちますが、職員の意識が気になる。

WS・座談会・講演会等多く実施しているが、一部の人だけ。

参加者が固定し広がり起きにくい

関係性

行政と市民が対等の立場で話し合うことが原則

一般市民・企業等・行政が同等の立場で相互に連携協力することで生産性向上につながる

それぞれの立場を理解し、尊重しあう関係であることが大切

独立気風が強い各種団体等を包含する組織を立ち上げ、地域の課題を共有していく必要がある。

自治振興委員、民生委員、福祉推進委員の連携

市民が主体のまちづくり

その他

市民参加そのものに疑問、複雑にしている。

市長・行政・議会・連合会で十分

地域担当職員の派遣は素晴らしい取り組み。

市民の自主、自立精神が不足

行政には、財政の助成、最新の情報提供等をお願いしたい。

協働の方法としては、事業の委託・補助、人材派遣、情報提供・情報交換等いろいろなカタチがある。

まちづくりについて

目標

市民が主体のまちづくり

市民の意見が市政に反映されるまちづくり

「まち」に関わる全ての人が自分ごとにとらえ真に豊かな暮らしを創造していくことがまちづくり

必要なこと

独立気風が強い各種団体等を包含する組織を立ち上げ、地域の課題を共有していく必要がある。

自治振興委員、民生委員、福祉推進委員の連携

市民の意識改革ができなければ自己満足で終わり、先の発展が望めない

人材

参加者が固定し広がり起きにくい

人材不足

市民が主役であるとの認識が不十分

市民が氷見の良さに気づいていない

凝り固まった考え

現状

公共交通機関の不便

防災・危機管理に対する理解と訓練不足

あたり前のことが空気みたいな存在になっていて目の前のシアワセに気づかない。

たくさんのプロジェクトやイベントが行われているが、参加した市民の声やまとめがWeb上に公開されていない。